

令和2年7月31日

7月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では県北(八溝)の原木生産は少な目だが、他の地区は間伐材中心に生産、入荷は順調である。製品の動きが悪いため、原木の引き合いは弱く、大型製材工場も当用買いの入札が目立つ。スギ中目材、ヒノキ材全般に売りづらい状況にある。一枚札、無入札材もあるが、元落ちは極めて少ない。製品市況の不透明さから当用買いが多く、さらに材質の落ちる時期と重なり、価格は低迷している。

群馬県の製材工場は新型コロナウイルスの影響で減産しており、原木の荷余り感がある。梅雨入りと虫害の心配も出ている。製品もスギ、ヒノキの柱・間柱等の大量生産の品目は荷余り状態であるが、ホームセンター向けは比較的順調である。製品価格の下落傾向が著しく、7、8月はさらに一段の下げも予想される。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社が伐採再開を発表したが、原木が出てくるのは一ヵ月以上先であり、港頭在庫の払底状況に変化はない。一方、米国原木シッパー大手のPLS International社が今年8月末で原木輸出事業からの撤退を発表した。米国製材品価格は6月も上昇を続け、2018年以来の高値水準になっている。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(7/3)は\$498/Mで5月末に比べ12.9%アップ。それに伴い米国内原木需要も回復し、価格も反転上昇中。工場閉鎖による生産量減少の影響で資材不足が出ている。

5月の原木入荷量は129千 m^3 と4月に続き今年最低水準、1~5月累計で792千 m^3 (前年同期比27%減)。カナダからの入荷が前年同期比で約77%減となった。出荷量は161千 m^3 、1~5月累計で819千 m^3 (同23%減)と低調。在庫量は減少し151千 m^3 、在庫率は0.87ヵ月。国内米マツ製材工場の荷動きは落ちており、稼働は前年同期比で約15%減になっている。東京木材埠頭の6月入荷は20千 m^3 (前月比21.4%増)、出荷は21千 m^3 (同3.4%増)、在庫は35千 m^3 (同2.3%減)。

3. 南洋材

サラワク州は乾季であるが、時々大雨に見舞われて原木生産は低調である。

主要輸出先であるインドからの引き合いが未だになく、市場は閑散としている。PNGでも中国、ベトナム、インドから引き合いが少なく、市場は閑散。雨季の伐採林区での生産量は減少、乾季の地区では生産を調整している。中国では4月からフリー板の生産が正常化してきたが、契約量激減のため、入荷が少なく販売も低調である。7月予想の原木入荷、出荷はそれぞれ12千 m^3 、在庫量は25千 m^3 、製材品入荷は33千 m^3 。

4. 北洋材

対日向け主力工場は一応操業を継続しているが、3月以降、新規注文が全く取れていない。また日本市場の回復の目処が立たず、一部で減産・休業の動きが出ている。中国市場が引き続き軟調のため、減産はさらに進むと予想される。焦れたシッパー側から値崩れが始まっている。現地挽き完成品は新型コロナウイルスの影響で一般ルートは全く動かない。入荷は減少しているものの、出荷減により港の倉庫は満杯で一部は野積みの状況である。国内メーカーはDIYからの注文が活発であるが、現地挽き製品の価格下落でコスト高の原板の処理に頭を悩ませている。栈木の荷動きが急速に鈍化、30×40の代替玉が順調に入荷し、港頭在庫も急増。7月予想の原木入荷・出荷量とも2千 m^3 、在庫量は15千 m^3 。製品は入荷量(東京+川崎)15千 m^3 、出荷量20千 m^3 、在庫量70千 m^3 で、在庫量は通常(約35千 m^3)に比べ倍増の見込み。

5. 合板

合板用原木の国産材は引き合いの少ない状況に変化なく、価格は弱含みのまま。ロシア材は停滞したままで当用買いの状況。米材は大きな問題はない。南洋材は供給量が安定しており、落ち着いている。

5月の国内合板生産量は22.4万 m^3 、うち針葉樹合板は21.6万 m^3 、出荷量は21.2万 m^3 で、在庫量は17.9万 m^3 、うち構造用合板の在庫は15.0万 m^3 となり、前月に比べ増加した。針葉樹合板の停滞状況が続いており、安値も散見される。各工場は減産を続けているが、価格は弱含み推移である。価格の引き締めには時間を要するだろう。輸入合板の荷動きが非常に悪いままで、先行きが不透明なことから当用買いが続いている。価格は若干の弱含み推移。5月合板輸入量は20.4万 m^3 で、マレーシア産は前月同様の入荷、インドネシア産は今年一番の少ない入荷である。インドネシアでは乾季に入り、各工場の原木在庫は安定しているが、引き合いが少なく生産は低調である。マレーシアでは天候や行動制限令の影響で原木伐採は低調であるが、需要が少ないため、原木在庫は増加傾向にある。

6. 構造用集成材

6月のラミナ入港は適正であるが、7月は遅延のコンテナ入港でやや多くなる。第3・四半期交渉は年末にかけての製品動向が読めず、長引いているが、値上げの要素はなく、横ばい若しくは下げで交渉が進んでいる。現地製材工場の夏期休暇に加え、日本側の購買意欲も弱いため、ラミナの入荷は減少するだろう。第2・四半期交渉でRW・WWラミナは値上げとなり、7、8月の入港分の価格は上昇している。輸入集成材の第3・四半期交渉はラミナ同様、横ばい若しくは下げで交渉が進んでいる。年末にかけての市況感が読めず、契約量を控えている輸入元が多い。梁桁輸入材の入港遅れにより仕入先を国内集成材メーカーに変更するプレカット工場が増えている。輸入完成品のRW積層間柱の在庫が多くなっている。

7. 木材チップ

新型コロナウイルスの影響でチップ原木の余剰感が強い。解体材は物件・発生量ともに減少傾向にある。製紙用チップは製紙会社の操短・定期修理に伴い、使用量が減少し、在庫量は増加。とくに原木切削の針葉樹チップの余剰感が強い。燃料用チップは大手の大型定期修理の終了に伴い、消費量は徐々に回復傾向にあるが、先行きタイト感は強い。チップ工場では原木入荷は多いが、出荷が伴わず、在庫が増加傾向にある。解体材も定期修理の影響で出荷は低調である。

8. 市売問屋

6月から市日が開催されているが、東京では新型コロナウイルス感染症が拡大しているため、市日の来客数は少ない。また雨も多く、仕事が少ないため活気が見られない。構造材は荷動きが悪くなっている。造作材も店舗の改装・新築が少ないため苦戦している。

9. 小売

全体的に予想した程の落ち込みは見られなかった。首都圏ではリフォーム工事が再開されつつある。スギ、ヒノキ構造材の手当ては当用買い一色で荷動きは鈍い。価格は下げ気配。国産材の羽柄材も新型コロナウイルスの影響で記念市が開催されなかったため荷動き悪く、全体に弱基調である。外材の土台角・梁材の価格は横ばい。米加製品が入荷し始めたが、数量が少なく安定していない。また国内挽き45×36×3mが品薄である。欧州材も入荷少なく、一部サイズで品薄となっている。WW集成柱を含め価格は保合。ロシア材の在庫が増加気味である。プレカット工場の稼働率は90%を割り込んでおり、5月までとは状況が変化している。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↗
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↘
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	↘
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↘
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘